特集　コロナ禍を生きる　その４

コロナ感染拡大を受けて、私たちの生活様式は大きく変わりました。
コロナ禍によって、利用者の生活がどのように変わったか、それをどのように受け止めているのか等を伺いました。

あすか　松浦涼二さん（グループホーム）

グループホームでは、チェックシートを毎日書くことで、手洗い・消毒に気をつけるようになりました。毎日検温しているので体調を確認できます。
事業所ではマスクの着用が義務付けられ、手洗いも徹底されました。外出レクが少なくなり、食事やおやつの時も向き合うことがなく、静かに一人で食べるようになりました。
検温やソーシャルディスタンス、三密を避ける等、しょうがないことですが、正直めんどうです。
咳や鼻水が出たりすると、すぐに「ひょっとしてうつったかな…」と不安になります。自分が感染するのも不安だし、感染した人の事も心配になります。毎日のニュースで感染者何名、死者何名…と見ると、その方々が気の毒だと思います。
事業所の対策はこれで良いと思います。感染症対策をした上で「あすか」でのカラオケや将棋の大会、外食レクや買い物レクをしたいです。

やまびこ　匿名希望さん（グループホーム）

事業所ではレクが減りました。食事の席のレイアウトも変わり、食事中の会話がなくなったので寂しいです。
グループホームではチェック項目が多くなり、テイクアウトの外食が増えました。
マスクをすることで風邪など、他の感染症が予防できていると思います。毎日の検温で体調の変化に気づきやすくなりましたし、マスクをすることで他人のくしゃみや咳も気にならなくなりました。

やまびこ　M.Sさん（自宅）

年中行事はなく、ほとんど中止。親類・近所との交流も思い通りできなくて、生活に張り合いがありません。
今は仕方ないけど、早くコロナが収束してほしいです。

あすか　佐藤真行さん（アパート）

事業所では、周りの人も清潔保持に努めているようです。病気によって免疫力を抑えなければならないので、このような変化は逆に良かったと思います。手の消毒の設置個所が何カ所もあり、助かります。
コロナによって変わったことは、マスクの値段が高くなったことです。

さごし　大沼早紀さん（グループホーム）

コロナのため、事業所の作業が少し減りました。お盆や正月に、家族全員が揃わなくて、寂しい思いをしました。
コロナ対策は臨機応変に対応しなければならないと思います。
事業所では、アルコール消毒薬の早急な対応が良かったと思います。
コロナ禍において、飲食店の方やサービス業等が自粛しなければならなくなりました。お店側も利用する方も、双方に悲しい思いを強いられることになりました。
経済の復興が今後の課題ですね。

あずまでは、利用者の方へアンケートを実施しました。
事業所で変化したことでは、検温・手洗い・うがい、マスク着用などの変化を上げる方が多かったです。
また、家やグループホームでの変化は、「外出ができなくなった」ことを上げる方が多数いたほか、「父とは食事の時間をずらしている」などを挙げる人もいました。
このような変化を「しょうがないと思う」と思う方もいましたが、「早く良くなってほしい」「ストレスがかかっている」という声もありました。
ワクチンへの期待を声にする方もいました。

あすか　玄関を飾っています

あすかの生活訓練では、みんなで協力して、玄関を飾るデコレーションを作成しています。
今回は、春らしく桜を咲かせる「花咲か爺さん」を作りました。
皆さんの心にも、きれいな花が咲きますように!!

はじめまして！

新年度にあたり、親和会に新しい役職員が入りました。自己紹介をしていただきましたので、紹介します。

理事・管理部長
井上　英司さん

4月から本部に勤務しております井上です。
4月になったとたん桜が開花し、今年は大雪だったことを忘れてしまいそうです。
総務関係を担当しておりますが、初めてたずさわる分野の仕事もあり、間違いがないようひとつひとつ確認しながら、胃の痛い毎日を送っています。
一日でも早く職員の皆さんの名前と顔を覚えることが当面の目標です。
よろしくお願いします。

鶴岡グループホーム・世話人
大井　あつ子さん

4月から大山の家に入りました世話人の大井あつ子です。
好きな言葉は相田みつをさんの「つまづいたっていいじゃないか、にんげんだもの」「自分のうしろ姿は自分じゃみえねんだなあ」です。
みなさんの名前と顔がやっとわかるようになりました。
これから頑張ります。よろしくお願いします。

酒田グループホーム・世話人
冨樫　玲さん

初めまして。世話人として夕食提供させていただいている冨樫玲です。趣味は庭いじりで、四季折々の草花を鑑賞すること。
あゆみでの仕事は、まだとまどうことがあり、入居者の皆さんに助けていただきながら日々頑張っています。
一日も早くコロナ禍が収束し、入居者の皆さんと一緒に春の息吹を感じられる日が来ることを願っています。

ありがとうございました

鶴岡南ロータリークラブ様から親和会に、ボッチャの用具一式を寄贈していただきました。ロータリークラブの皆様、ありがとうございました。

「ボッチャ」とは、イタリア語の「ボール」を意味し、重度脳性麻痺か同程度の四肢障がい者のために考案されたヨーロッパ発祥のスポーツです。

激動の令和2年度を振り返る（1面の続き）

鶴岡グループホーム

令和2年度で印象に残っていることは、豪雪で通所事業所が閉所になったこと、利用者の方が除雪に協力してくれたことです。
事故防止のため、利用者は除雪をしないことになっていますが、世話人用の駐車用スペースを除雪してくれたのが、とてもうれしかったです。
コロナ関連では、今まで手洗いをあまりしていなかった利用者も手洗い、手指消毒に慣れてきました。また、外泊する利用者が減ったことも変化の一つです。

年度初めにグループホームみらいが新海町からみどり町に移転しました。

酒田グループホーム

アルコール消毒や換気等、コロナ予防を徹底しました。リビングに集うことをやめ、麻雀等も行わなくなりました。
ストレスがたまり太るなど影響が出ています。

ヘルパーステーション しんわかい

コロナ対策にフェイスシールドや使い捨てエプロンを購入しました。また、利用者自らが、自宅で検温・マスク・消毒をするようになりました。
本人の希望に応じて除雪（自費）を行いました。団地にお住いの住民と共に行うことで、地域とのコミュニケーションを図りました。